

2. 情報提供

認知症で困っている方を助けて送り届けた後には、いきいき支援センターに情報提供をしてください。いきいき支援センター職員が後日連絡を入れます。

◆ 港区東部いきいき支援センター

住所 港区港楽二丁目6番32

電話 052-651-0568

◆ 港区西部いきいき支援センター

住所 港区寛政町6丁目40番地

電話 052-381-3260

◆ 港区西部いきいき支援センター分室

住所 港区知多二丁目2215 レーブエル1階

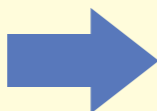
電話 052-309-7411

はい!
いきいき支援
センターです。



こんな時は!

声をかけた人が行先や住所が
答えられない場合には…



速やかに110番して
ください!

愛知県港警察署(110番)

〒455-0032 名古屋市港区入船2-4-16

●認知症について詳しく学びたい方は、認知症関連事業への参加もできます!

☆認知症サポーター養成講座

認知症の正しい知識を学びたい人が受講できる講座です。



認知症サポーターキャラバン

☆はいかい高齢者おかえり支援事業

認知症のはいかひの恐れがある方の情報を登録したうえで、その方が行方不明になった時に家族等からの依頼によって、行方不明となった方の身体的特徴や服装等の情報をおかえり支援サポーターや協力事業所にメール配信し、**捜索協力をしてもらう事業**です。



問合せ 港区東部いきいき支援センター 港区西部いきいき支援センター

誰もが、いつまでも、安心して暮らしていける名古屋市港区を目指して…。

地域住民の皆さまの温かい声掛けや見守りが、誰かの手助けになるのです。



もしかして…認知症?

地域住民向け

あなたの生活する地域の中にも、もしかしたら認知症を患っている方がいるかもしれません。認知症になると何もできなくなるわけではありません。

生活のための買い物をしたり、病院受診のために外出したりなど、日常生活を送るための活動は私たち健常者と同じです。

私たちと違うことは「もの事を記憶したり、判断する能力」や「時間や場所、人などを認知する能力」などが低下し、日常生活の中で支障をきたし、不安な気持ちや混乱からの焦る気持ちや緊張などを抱えながら毎日の生活を送っていることです。

地域の人たちのサポートや安心できる環境、適切な治療があれば、認知症の人は自分らしい生活を長く続けていくことができます。

そんな誰もが安心して暮らしていける港区を作るために、このリーフレットを作成しました。

ぜひ、あなたの周りで困っている方がみえたら参考にしてください。

地域の皆さんのお力が、大きなつながりの輪となりますように…

認知症の症状と進行

状態	認知症の疑い	ひとりで生活できる	見守りが必要	手助け・介護が必要	常に介護が必要
ご本人の様子	<ul style="list-style-type: none"> ●もの忘れが気になる ●お金の管理や買い物、書類の作成はひとりでできる 	<ul style="list-style-type: none"> ●日付や時間が分からなくなる ●買い物やお金の管理にミスが見られる ●日常生活は何とか行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物やお金の管理ができない ●服薬管理ができない ●電話の対応や訪問者の対応が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ●着替え・入浴・食事・排泄・整容(洗面、歯磨き、化粧)に手助け・介護が必要になる 	<ul style="list-style-type: none"> ●車いす・ベッドでの生活が中心になる ●食事をとることが困難になる ●言葉による意思表示や理解が困難になる

※アルツハイマー型認知症の進行と主な症状をもとに作成

このような人を見かけたら…

声掛けや手助けが必要かもしれません!

〈服装〉

- 季節に合わない服装をしている。
(夏なのに、毛糸物の服や厚手のカーディガンを羽織っているなど)

〈表情〉

- 不安そうな表情。助けてほしいような、何かを言いたそうな表情。
- キョロキョロしながら同じ場所を何度も歩いている。

〈様子〉

- うろろろ落ち着かない。
- 買い物の時、お金が払えない。
(お札しか出さない、そのため小銭に財布がパンパンの状態)
- 日付や場所がわからない。
- 少し前に話したことを忘れて、何度も同じ話を繰り返す。

〈足元〉

- 左右で違った履物をはいている。または季節に合わない履物をはいている。

〈その他の特徴的なこと(個人差があります)〉

- ないものが見える。幻覚がある。(虫がいる・お化けがいる・小人がいるなど)
- もの盗られ妄想がある。

認知症で困っている人を見つけた時の対応方法

こんな時、どのように対応するのか、考えてみましょう。



あなたは外出先で、同じ場所をうろろろしている高齢女性と出会いました。その女性は夏なのに、ニットのカーディガンを何枚も羽織っており、カバンも持たず、名前が分かりそうなものは持っていないさそうです。靴もはいておらず、スリッパ姿のまま困っているようです。

1. まずは挨拶

「こんにちは」と優しい口調で挨拶する。

挨拶した後で、「何かお困りですか?」

「どちらかに行かれる予定ですか?」

などと世間話をするように、話しかけてあげてください。

何かお困りですか?



- 目的地が近い場合や、自宅が近い場合は、時間が許すのであれば「同じ方向なので、一緒に行っても良いですか?」などと、お話ししながら、目的地やご自宅までお連れする。

Point 1

できれば、目的地先の誰かに『認知症の疑いがある方』をお連れした旨を伝えておいたり、ご自宅にお連れした場合には、ご家族に声をかけておく心安心です。

Point 2

認知症の人への3つの心得 “3つのない”で接しましょう。

①驚かせない

②急がせない

③自尊心を傷付けない

- ジロジロ見ることはせず、さりげなく見守りましょう。
- 自然な笑顔で余裕をもって接しましょう。
- 声をかけるときは一人で。複数人で声をかけると恐怖心をあおります。
- 後ろから声をかけないように心がけましょう。
- 相手の目線に合わせて優しい口調でお話しましょう。
- ゆっくり、はっきりした口調でお話しましょう。
- 急かさず、相手の言葉に耳を傾けて、何をしたいのか推測・確認をしましょう。